

第107回 品質管理シンポジウム



顧客価値創造に貢献できる品質に 拘り続ける組織と人材の育成

—風土化された組織能力(○○○Way)の構築と強化—

アイシン精機株式会社
シニア・エグゼクティブ・アドバイザー
藤江直文氏

株式会社安川電機
代表取締役会長
津田純嗣氏

コニカミノルタ株式会社
代表執行役社長兼CEO
山名昌衛氏

韓国・ランド・ベルカ
日本法人会長
遠藤功氏

株式会社小松製作所
相談役
坂根正弘氏

アイホン株式会社
代表取締役社長
市川周作氏

開催期日：2018年11月29日(木)～12月1日(土)

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

会場：大磯プリンスホテル

後援：一般社団法人 日本品質管理学会

趣旨



猪原 正守 氏

大阪電気通信大学
情報通信工学部
情報工学科 教授

第107回品質管理シンポジウム
主担当組織委員

2017年6月に開催された「第104回品質管理シンポジウム」において、あらゆる変化に対応し、変化し続ける企業の経営トップが「品質第一」「顧客第一」に対するゆるぎない信念に基づいて組織をリードし続けていることの重要性が再認識されました。また、第105回では、製品のみを通じた顧客対応の視点からの脱却と経営トップのリーダーシップ、組織・部門間のサポート体制づくりによる顧客価値実践の重要性が確認されました。さらに、第106回では、顧客第一の実践強化による変化する顧客ニーズの把握から、もっとよいモノとサービスの提供を全員で実践する過程で得られる企業価値創造について検討されました。

一方、現在では、モノ・サービスに対するお客様の期待を超えるダントツの価値提供を実現するため、数量化できるものだけを対象としたり数量化できないものも可能な限り数量化しようとするハードサイエンスに加えて、IT、AI、機械学習、並列分散処理などを基盤とするソフトサイエンスの利活用が求められています。また、人々の創造性発揮の源泉となるワークライフバランスやダイバーシティの推進が企業経営における重要課題となってきました。

こうした環境において、理屈では理解していても「どの

ようにして問題を解決するか」という問題解決に力点が置かれ、「中長期的視点からみた問題の本質は何か」を見失うことも少なくありません。この問題の本質を指向する考え方が「品質第一」であって「顧客第一」であるといえましょう。

企業における課題が激変し、競争がグローバル化する時代であればこそ、個別企業の枠を超えた産業界全体において「品質にこだわり続けることのできる組織やひとの育成」を考える意義は深いと考えられます。実際、拡大傾向にあるグローバル経済社会においても、〇〇〇Wayを核として、その価値観を共有し、国籍や世代を超えて組織の活力を高め、品質経営の実践によって持続的成長を勝ち取っている企業は少なくありません。

今回は、「品質第一」の実践をさらに強化して、一人ひとりが「品質に拘り続ける」ための工夫を凝らし、価値創造に貢献できる新たな品質至上の組織風土を確立するために必要となる考え方を再整理し、あらゆる変化にスピーディに対応できる強靱な企業組織の構築と経営トップを始めとする人々の育成のあり方について皆さんと一緒に議論したいと考えます。

プログラム		開催期日：2018年11月29日(木)～12月1日(土) 会場：大磯プリンスホテル	
月日	時間	科目	講演者
11/29 (木)	19:30～20:40	<特別講演> 代を重ねることに強くなるための品質経営	坂根 正弘 氏 (株)小松製作所 相談役
	20:40～21:00	質疑・応答	
	21:00～22:00	グループ討論メンバー自己紹介	
	22:00～23:00	談話室(QCバー)(自由参加)	
11/30 (金)	8:30～8:40	主催者挨拶、オリエンテーション	(一財)日本科学技術連盟 理事長 佐々木 真一
	8:40～9:30	<基調講演> 現場力と経営者の役割	遠藤 功 氏 (株)ローランド・ベルガー 日本法人会長
	9:30～9:50	質疑・応答	
	9:50～10:00	休憩	
	10:00～10:50	<講演1> 価値創造に貢献できる組織能力の強化	市川 周作 氏 アイホン(株) 代表取締役社長
	10:50～11:10	質疑・応答	
	11:10～11:30	休憩	
	11:30～12:20	<講演2> アイシングループにおける「品質至上」の実践	藤江 直文 氏 アイシン精機(株) シニア・エグゼクティブ・アドバイザー
	12:20～12:40	質疑・応答	
	12:40～13:30	昼食・休憩	
	13:30～14:20	<講演3> 魅力的商品開発による企業価値提供を持続する開発人材の育成	津田 純嗣 氏 (株)安川電機 代表取締役会長
	14:20～14:40	質疑・応答	
	14:40～14:50	休憩	
	14:50～15:40	<講演4> デジタルトランスフォーメーションによる新しい価値の創造	山名 昌衛 氏 コニカミノルタ(株) 代表執行役社長 兼 CEO
	15:40～16:00	質疑・応答	
	16:00～16:15	グループ討論の主旨説明	
	16:15～16:40	休憩・移動	猪原 正守 氏 大阪電気通信大学 情報工学科 教授
	16:40～18:15	グループ討論(1)	
	18:15～19:15	夕食(立食パーティー)	
	19:15～21:00	グループ討論(2)	
	21:00～23:00	談話室(QCバー)(自由参加)	
12/1 (土)	8:30～9:50	グループ討論報告(10分×7班 ※予備10分)	
	9:50～10:05	休憩	
	10:05～11:35	総合討論	猪原 正守 氏 津田 純嗣 氏 (株)安川電機 代表取締役会長 108QCS主担当組織委員
	11:35～11:50	第107回 品質管理シンポジウム まとめ	
	11:50～12:00	次回(108回)品質管理シンポジウム案内	
	12:00～	昼食・解散	

※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。
※組織名・役職は、2018年9月14日時点の表記になっております。

第107回 品質管理シンポジウム 講演概要

11/29 (木) 特別講演

代を重ねるごとに強くなるための品質経営

坂根 正弘氏 (株)小松製作所 相談役

経営トップが品質に関心事として捉えるためには、顧客価値を考えるということが重要になってきます。顧客価値とは、全てのステークホルダーから、どれだけ信頼を得ているかという尺度だと考えており、コマツでは、「顧客にとってなくてはならない度合いを高め、パートナーとして選ばれ続ける存在となる」ための活動に取り組んでいます。それは、経営トップが主導しなければならぬ活動であり、これからの品質経営の在り方だと考えています。ビジネスモデルで先行し、現場力で勝負に持ち込めば日本は絶対に負けません。そのためにも、経営トップがいかにかこの活動を先導し、顧客価値を創造していけるか、が重要になってきます。こういった活動を永続的に高めていくためには単なる〇〇イズムで終るのではなく、価値観とそれを実現する行動様式まで落とし込み、トップ自ら現場から遊離しない経営を続けることが基本です。昨今の品質に関する不祥事もトップ主導による顧客価値創造で企業の収益性改善と現場立脚が代々貫かれていけば防げるのではないのでしょうか。



11/30 (金) 基調講演

現場力と経営者の役割

遠藤 功氏 (株)ローランド・ベルガー 日本法人会長

世界の市場は不確実性、不透明性が増し、それに適応した「乱気流の経営」が求められています。この荒波を乗り越えるための鍵となるのが日本の競争力の源泉である「現場力」です。一方で、どのような状況でも経営において本質的に大事なことは、たったひとつ。それは、会社が「生きている」ことです。常に挑戦と創造を続ける「生きている会社」と、守りと管理に走り停滞に沈む「死んでいる会社」の差はどこにあるのでしょうか。本講演では、「現場力」「生きている会社」をキーワードに、経営者が実践すべきことを具体的な事例を交え解説します。



11/30 (金) 講演 1

価値創造に貢献できる組織能力の強化

市川 周作氏 アイホン(株) 代表取締役社長

アイホンは、住宅や病院に加え、オフィス等でも使用されるインターホンを中心としたコミュニケーションとセキュリティのシステムを、企画・開発・製造・販売そしてアフターサービスまで一貫して行っています。めまぐるしく変化する経営環境の中、コールセンターを起点とした市場情報を新商品開発や営業活動に活用し、新たな価値創造を行い永続的に発展できる組織を目指して、全社を挙げてTQMの再活性化に取り組んだ内容をご紹介します。



11/30 (金) 講演 2

アイシングループにおける「品質至上」の実践

藤江 直文氏

アイシン精機(株) シニア・エグゼクティブ・アドバイザー

アイシン精機は創立以来、商品の独自性を尊重した分社化を進め、各社が専門性を高め、小回りの利く経営を実践し、今ではグローバルで200社を超えるグループ企業となりました。現在は分社化の「強さ」や「専門性」を活かしつつ急激な環境変化に対応する為にパーチャルカンパニー制を進めています。こうした変遷の中でもグループ共通の経営の基本理念を「品質至上」と定め、いかなる時代にあってもお客様に満足して頂ける商品を社会に提供することが、永久不変の絶対条件であるとの信念に基づいた経営をしています。経営者を含めた全社員に基本理念を浸透させ、「品質至上」が実践できる環境の整備を愚直に進めてきましたが、ある出来事を契機に原点に戻った活動の振り返りを進めています。本講演では、グループ11万人の仲間と共に進めている活動を具体的な事例を交えてご紹介します。



11/30 (金) 講演 3

魅力的商品開発による企業価値提供を持続する開発人材の育成

津田 純嗣氏 (株)安川電機 代表取締役会長

安川電機は1915年の創業以来、「電動機（モータ）とその応用」を事業領域と定め、その製品・技術により時代の先端技術を支えてきました。現在はモーションコントロール、ロボット、システムエンジニアリング事業を中核とし、ビジネス拠点は世界29カ国、生産拠点は12カ国とグローバルに事業を展開しています。当社の開発体制は、グローバルな体制を取っており、日本で製品プラットフォームの開発を行い、海外はそれをベースに地域やお客様のニーズに合わせたカスタマイズを行っています。このグローバルな事業に貢献する開発人材の育成については、「YASKAWAの人づくり」理念に基づき、人材育成フレームワークをベースに階層毎に共通基本教育と機能別専門教育の人材育成カリキュラムを構築し実施しています。例えば、開発に携わる技術系の新入社員については、入社直後から1年間にわたり、集合教育と海外拠点を含む事業所でのインターンシップを実施し、本人の技術が活かせる、希望する職場に配属させています。また、その他の階層については、モータ技術やパワー変換技術などの要素技術研修やサーボ、インバータ、ロボットなどの製品技術研修などの専門技術研修もあり、あらゆる階層のレベルアップに役立っています。一方、地場の大学や異業種企業との共同研究や技術交流も積極的に進めており、革新的なイノベーションを継続的に起こせるよう取り組んでいます。今回は、これら安川グループの取組みと実践事例についてご紹介します。



11/30 (金) 講演 4

デジタルトランスフォーメーションによる

新しい価値の創造

山名 昌衛氏 コニカミノルタ(株) 代表執行役社長 兼 CEO

コニカミノルタは「課題提起型デジタルカンパニー」を目指し、顧客の顕在化している課題はもちろん、まだ見えていない課題も先回りして、お客さまと一緒に答えを導き出し、ビジネスや人間社会の進化を支える新たな価値を提供していきます。祖業のカメラ・フィルム事業から培った材料、光学、画像処理の技術と、ICTやAIなどによるデータ解析を組み合わせ、バイオヘルスケア領域でのがんの個別化医療の実現や、オフィスにおける働き方改革や生産性・創造性の向上に貢献します。こうしたソーシャルイノベーション創出における鍵は、「人材のトランスフォーム」にあります。M&Aによる人材やノウハウの獲得、世界5極でのアジャイルな事業開発のほか、デジタルによる課題解決の取組みなど、当社の変革プロセスを事例とともに紹介します。



107QCSグループ討論

テーマ・趣旨・論点

第1班	<p>「価値創造に拘り続ける組織の育成における経営者の役割」 ■リーダー：安藤 之裕氏（一財）日本科学技術連盟 囀託）・佐藤 義和氏（富士ゼロックス株）執行役員 CS本部長）</p> <p>趣旨 企業の社会的責任（CSR）の達成が強く求められ、企業経営の透明性、公正性、社会性などに関わり、日本のものづくりに関わる根幹を揺るがせるトラブルの根絶が求められています。一方、働き方改革、技術革新（IoT、AI）などのビジネスを取り巻く環境が急速に変化する中で、顧客への新たな価値を提供し、自社の企業価値を高めていくことが喫緊の課題です。そこで、第1班では企業の経営にかかわる方々で顧客価値創造に拘り続ける組織を育成するために、経営者として果たすべき役割について議論します。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> ①経営者として、顧客価値創造をどのように理解するか。 ②経営者のその想いをどのように組織へ伝えていくか。 ③それを人財育成の面でどのように定着させ、企業風土としていくか。
第2班	<p>「品質に拘り続け、価値創造に貢献できる企画・開発部門に求められる組織と人材の育成」 ■リーダー：高橋 勝彦氏（広島大学大学院 工学研究院 教授）・赤星 孝行氏（株安川電機 品質経営推進部 担当部長）</p> <p>趣旨 グローバル競争が激化する中で企業が持続的成長を続けるためには、真の顧客ニーズと合致した魅力ある新製品の企画・開発が源泉として求められます。しかし、現実に目を向けると、個々人の成功体験や知識などの暗黙知に基づく企画・開発に委ねることもあり、組織能力をフル活用した持続的な新製品企画・開発のしくみが求められています。こうした中、第2班では、品質を核とした価値創造に貢献できる企画・開発部門の風土化された組織能力とは何か、また人材の育成のあり方とは何かについて議論したいと考えています。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> ①企業が持続的成長を続けるための企画・開発における問題・課題とその対処法は何か？ ②その対処法を実現するための組織能力とはどのようなものか？ ③その組織能力を支える人材育成の課題とその解決方法は何か？
第3班	<p>「品質に拘り続け、価値創造に貢献できる営業部門の風土化された組織と人材の育成」 ■リーダー：荒木 孝治氏（関西大学 商学部 教授）・吉澤 誠氏（アイホン株）執行役員 国内営業本部長）</p> <p>趣旨 企業が持続的に成長を続けるためには、顧客ニーズに合致する商品やサービスを提供する適品販売を実行できる営業部門であることが絶対要件である。そのためには、膨大な顧客ニーズ情報から、顧客の求める当たり前品質と一元的品質および魅力的品質を峻別するマーケティング力が求められます。第3班では、それらを実現できる「（プロセス及び/又は業務の）品質に拘り続け、価値提供に貢献できる営業部門のあるべき姿とは何か」、「そのあるべき姿を実現するために求められる組織の風土化された能力とは何か」、「その能力を有効活用できる人材を育成するための課題とは何か」、「それらの課題を解決するための方法論は何か」などについて議論します。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> ①品質に拘り、価値提供に貢献できる営業部門のあるべき姿とは何か ②あるべき姿を実現するために求められる組織能力は何か ③その能力を有効活用できる人材の育成における課題およびその達成のための方法論は何か
第4班	<p>「品質に拘り続け、価値創造に貢献できるサービス部門に求められる組織と人材の育成」 ■リーダー：太田 雅晴氏（大阪市立大学大学院 経営学研究所 教授）・宮野 玲衣氏（株ジーシー GQM推進室 室長）</p> <p>趣旨 ビックデータ収集・活用技術などの登場で、顧客サービス部門のサプライチェーン上の位置づけは最上流として捉えるべき重要機能だと認識されつつあります。つまりサービス活動では、顧客不満足解消という視点だけでなく、情報技術などを活用して真に顧客の求める魅力的なコトの発掘とプロアクティブな品質保証活動が求められます。本班では、この活動推進のためのサービス部門の組織能力の構築とスピーディな人材育成のあり方について議論します。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> ①サービスの現状・課題を明らかにし、そこから真に価値創造に繋がるサービスのあり方 ②最新の情報技術を用いたサービス活動を通じて、顧客が求める真の品質を追究するしくみ・方法 ③サプライチェーン全体を俯瞰するサービス活動を機能させ、継続的に価値創造活動を推進するしくみ・方法
第5班	<p>「品質に拘り続け、価値創造に貢献できる生産技術部門に求められる組織と人材の育成」 ■リーダー：永田 靖氏（早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授）・藤井 暢純氏（元サンデンホールディングス株）</p> <p>趣旨 市場競争のグローバル化・ハイスピード化と情報技術革新によって、品質・原価・納期に対する顧客要求はラインオフ直前まで変化し続けています。こうした変化に対する迅速かつ的確な対応を通じて、顧客価値創造に貢献することが期待されます。このような変化の中で、第5班では、変化に耐えられる生産技術（生産準備、工程管理、サプライヤ管理等、それに伴う品質管理、評価も含む）部門で（プロセス及び/又は業務の）品質に拘って実行する組織のあるべき姿、風土化された能力、そして現場で能力を発揮できる人材を如何に育成するかについて議論します。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> ①（プロセス及び/又は業務の）品質に拘り続け、価値提供に貢献できる生産技術部門のあるべき姿とは何か ②市場競争のグローバル化・ハイスピード化と情報技術革新の中で、変化に対応するための生産技術部門の課題とは何か ③そのあるべき姿を実現するために求められる組織の風土化された能力とは何か、その能力を有効活用できる人材を育成するための課題とは何か、それらの課題を解決するための方法は何か
第6班	<p>「品質に拘り続け、価値創造に貢献できる生産部門の風土化された組織と人材の育成」 ■リーダー：西 敏明氏（岡山商科大学 経営学部 経営学科 教授）・鬼頭 靖氏（アイシン精機株）オールアイシンTQM推進センター センター長）</p> <p>趣旨 計画された品質、原価、納期を計画された経営リソースの有効活用によって実現できる4Mの運用が求められる生産部門には、顧客ニーズの絶えざる変化に迅速かつ的確な対応が求められます。第6班では、それらを実現できる（プロセス及び/又は業務の）品質に拘り続け、価値提供に貢献できる生産部門のあるべき姿や、そのあるべき姿を実現するために求められる組織の風土化された能力とは何かを考えます。またその能力を有効活用できる人材を育成するための課題や方法などについて議論します。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生産部門において、顧客ニーズに迅速かつ的確な対応を実現するために（プロセス及び/又は業務の）品質に拘り続け、価値提供に貢献できる生産部門のあるべき姿とは何か。 ②あるべき姿を実現するために求められる組織の風土化された能力とは何か。 ③組織に風土化された能力を有効活用できる人材を育成するための課題とは何か、またそれらの課題を解決するための方法は何か。
第7班	<p>「品質に拘り続け、価値創造に貢献できる職場第一線に求められる組織と人材の育成」 ■リーダー：長塚 豪己氏（中央大学 理工学部 経営システム工学科 教授）・高野 英雄氏（株キヤタラ 執行役員 品質保証本部 本部長）</p> <p>趣旨 社会や顧客のニーズにより激変する市場環境の中では、製造部門に限らずあらゆる部門の現場で、顧客価値の実現と提供において、品質に拘り続け、価値創造に貢献できる組織が期待されます。それぞれの組織の現場には、迅速な対応や業務の無駄（手戻り）を排除するために、ニーズ満足の目的や目標を明確にし、業務要件を個別作業レベルに細分化して、連携部署間との関係、要件や基準が明確にされた業務の標準（自工程完結）が整備されているべきだと考えます。第7班では、製造部門に限らずあらゆる部門を対象とし、それらを実現できる最前線・現場第一線組織のあるべき姿、風土や必要とされる能力、人材の育成について議論します。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「品質に拘り続け、価値提供に貢献できる」最前線・現場第一線のあるべき姿とは何か。 ②そのあるべき姿を実現するために求められる組織の風土や必要とされる能力は何か。 ③さらに、風土構築や人材能力育成のための課題、対応アプローチを考える。

※各班25名～30名を定員としております。先着順となりますので、第1希望の班が定員に達した場合、第2希望とさせていただきます。
 ※組織名・役職は、2018年9月14日時点の表記となっております。

参加要領

開催日時 **2018年11月29日(木) 19:30~12月1日(土) 12:00**
(11月29日受付開始17:00~、夕食18:00~)

会場 **大磯プリンスホテル**
〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷546
TEL: 0463-61-1111 FAX: 0463-61-6281

参加対象 企業の役員、上級管理職の方々

※是非、今回のシンポジウムテーマ・グループ討論に深い関連のある、経営企画、企画・開発、営業、サービス、生産技術、生産各部門の方々のご参加についても、ご検討をお願いします。

参加受付は、QCS会員のみとさせていただきます。

参加費

●QCS企業会員

・ トップ枠(会長もしくは社長)、通常枠 各1名無料

・ 3人目から43,200円/1名

※ トップ(会長もしくは社長)が参加されない場合は、無料参加枠は通常枠の1名のみとなります。

●QCS団体会員

・ 通常枠 1名無料

・ 2人目から43,200円/1名

※食事代(11月29日夕、11月30日朝・昼・夕、12月1日朝・昼)は日科技連が負担いたします。尚、宿泊費、交通費はご負担ください。

■申込期日 第一次〆切を10月19日(金)とさせていただきます。

今回のシンポジウムは、多くの会員企業様にご参加いただくことを目的に、第一次〆切までは、1社2名(トップ枠、通常枠の無料枠含む)までとさせていただきます。第一次〆切後は、先着順でお申込を受け付けます。会場定員に達し次第、申込を締切らせていただきます。



会場：大磯プリンスホテル

シンポジウム申込方法

QCS専用Webサイトからお申し込みください。

<http://www.juse.jp/qcs/>

最近の主な講演者

(組織名・役職は講演当時の表記になっております)



第106回
㈱日立製作所
取締役 代表執行役 執行役社長 兼 CEO
東原 敏昭 氏



第106回
カゴメ㈱
代表取締役社長
寺田 直行 氏



第105回
マツダ㈱
代表取締役会長
金井 誠太 氏



第103回
トヨタ自動車㈱
取締役社長
豊田 章男 氏



第101回
エリーパワー㈱
代表取締役社長
吉田 博一 氏



第100回
トヨタ自動車㈱
名誉会長
豊田 章一郎 氏

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略) ※◎は第107回品質管理シンポジウム主担当組織委員

(組織名・役職は2018年9月14日時点の表記になっております)



◎猪原 正守
大阪電気通信大学 教授



大橋 徹二
㈱小松製作所
代表取締役社長 兼 CEO



佐藤 和弘
トヨタ自動車㈱ 専務役員



鈴木 和幸
電気通信大学名誉教授



津田 純嗣
㈱安川電機
代表取締役会長



中條 武志
中央大学 教授

【ご確認ください!】第107回品質管理シンポジウム参加予定の方へ

今回のシンポジウムでは、より効果的な議論を行うため、参加いただく皆様と以下の通り用語（言葉）の定義と考え方を共有した上で進めて参ります。

- 品質・・・顧客及び社会のニーズを満たす度合い
- 品質保証・・・顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動
⇒「品質」は、モノの出来栄のことではない。
- サービス・ドミナント・ロジック・・・価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる
※顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない
- グッズ・ドミナント・ロジック・・・価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている
※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する
⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何ができれば喜ぶのか？」という着眼点で考える。

品質管理シンポジウム会員にご入会ください！ QCSは会員のみが参加できるシンポジウムです

- メリット1 >>> 講演（トップランナー企業）から、TQMの推進・動機づけに役立つ情報が得られます。
- メリット2 >>> グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。
- メリット3 >>> 参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

入会費用▶企業会員：1口につき年額187,920円（消費税含む） 団体会員：1口につき年額108,000円（消費税含む）

入会いただきますと

- 企業会員：無料参加枠2名（トップ枠・通常枠）を確保できます。
- 団体会員：無料参加枠1名（通常枠）を確保できます。
- 無料参加枠以外の方は特別価格（43,200円）でご参加いただけます。
- 本シンポジウムの発表報文集・実施報告が無料で入手できます。

※日科技連賛助会員とは異なります。QCS独自の会員制度です。ご入会は、随時受付けております。

品質管理シンポジウム 会員企業・団体

※2018年9月現在、50音順 117社

1 (株)アーレスティ	25 コニカミノルタ(株)	49 ダイヤモンド電機(株)	73 新潟ダイヤモンド電子(株)	97 (株)ブリヂストン
2 アイシン・エイ・ダブリュ(株)	26 (株)小松製作所	50 大和リース(株)	74 (株)ニコン	98 べんてる(株)
3 アイシン・エイ・ダブリュ工業(株)	27 サラヤ(株)	51 (株)竹中工務店	75 日華化学(株)	99 (株)保志
4 アイシン機工(株)	28 澤藤電機(株)	52 中国化薬(株)	76 (株)日科技連出版社	100 本田技研工業(株)
5 アイシン軽金属(株)	29 サンデンシステムエンジニアリング(株)	53 (株)千代田グラビヤ	77 日産自動車(株)	101 前田建設工業(株)
6 アイシン精機(株)	30 サンデンホールディングス(株)	54 テックスエンジニアリング(株)	78 日産車体(株)	102 (株)前田製作所
7 愛知製鋼(株)	31 (株)三和	55 (株)デンソー	79 日本商工会議所	103 マツダ(株)
8 アイホン(株)	32 (株)シーヴィテック	56 (株)東海理化電機製作所	80 日本電気(株)	104 (株)マルヤスエンジニアリング
9 (株)アドヴィックス	33 (株)GSユアサ	57 東芝機械(株)	81 (株)日本科学技術研修所	105 丸和電子化学(株)
10 (株)イシダ	34 (株)ジーシー	58 東レ(株)	82 日本特殊陶業(株)	106 三島食品(株)
11 NECプラットフォームズ(株)	35 (株)ジーシーデンタルプロダクツ	59 TOTO(株)	83 パナソニック(株)	107 (株)村田製作所
12 (株)FTS	36 (株)ジェイテクト	60 トクラス(株)	84 パナック(株)	108 (株)メイドー
13 (株)MCシステムズ	37 清水建設(株)	61 (一社)富山県経営者協会	85 (株)羽生田製作所	109 名北工業(株)
14 エリーパワー(株)	38 JUKI(株)	62 トヨタ自動車(株)	86 パラマウントベッド(株)	110 安川エンジニアリング(株)
15 大塚化学(株)	39 シロキ工業(株)	63 トヨタ自動車九州(株)	87 ピアメカニクス(株)	111 (株)安川電機
16 岡谷電機産業(株)	40 (株)SUBARU	64 トヨタ自動車東日本(株)	88 PHC(株)	112 (株)ユニバース
17 (株)オティックス	41 住友理工(株)	65 トヨタ自動車北海道(株)	89 日立オートモティブシステムズ(株)	113 (株)リコー
18 オムロン(株)	42 積水化学工業(株)	66 (株)豊田自動織機	90 日野自動車(株)	114 リコーエレメックス(株)
19 鹿島建設(株)	43 (株)セキソー	67 トヨタ車体(株)	91 ヒロセ電機(株)	115 リコーテクノロジーズ(株)
20 関西電力(株)	44 ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)	68 豊田鉄工(株)	92 (株)フジクラ	116 (株)良品計画
21 (株)キャタラー	45 ダイキン工業(株)	69 豊田バンモップス(株)	93 富士ゼロックス(株)	117 ローム(株)
22 光洋サーモシステム(株)	46 (株)大広	70 トヨタ紡織(株)	94 富士電機(株)	
23 コーセル(株)	47 ダイハツ工業(株)	71 トヨタホーム(株)	95 フジミ工研(株)	
24 小島プレス工業(株)	48 大豊精機(株)	72 長津工業(株)	96 フタバ産業(株)	

問い合わせ

一般財団法人日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当（安随／糸柳／池田／菅田／渡邊）

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL：03-5378-1215 FAX：03-5378-9842 E-mail：tqmsemi@juse.or.jp